

授業科目名	環境保健医学Ⅱ (環境予防医学)	担当教員	准教授 久松 隆史 (他 日程表に記載)
開講年次・学期	3年後期	必修/選択	必修
開講形態	講義	時間数/単位数	68時間 (Ⅰ・Ⅱ合計)
授業概要			
基礎医学及び臨床医学で臓器別、機能別に学習してきた健康問題を、一人の人間が様々な生活環境とライフスタイルの中で経験する健康問題として総合的にみる視点を習得する。その視点のもとに、臨床現場でのプライマリヘルスケア実践に必要な予防医学の考え方や方法論を学習する。			
G I O (一般目標)			
1. 予防医学に必要な項目の学習により、予防医学の実践の対応を学習する。 2. 産業医学を理解し、職域における健康管理・環境管理について学習する。 3. 環境問題について理解し、身近な健康問題と結びつけて説明できる。 4. 医動物学の学習により、プライマリケアにおける寄生虫症の予防を理解する。			
S B O (行動目標)			
1. 予防医学の視点を習得し、予防医学の重要性を説明できる。 2. 産業医の職務と、作業管理・作業環境管理・健康管理について説明できる。 3. 労働環境の特徴を健康問題と関連づけて理解し、労働災害や職業病の現状を概説できる。 4. 産業現場で起こる中毒や職業がんについて理解し、その予防策が概説できる。 5. 日常生活における環境起因性疾患について説明できる。 6. 空気・水・物理的環境要因等による生体に及ぼす影響について概説できる。 7. マラリアやその他の原虫症の病態とその対応が説明できる。 8. 寄生虫症や病害動物による疾病を理解し、プライマリケアにおける対応ができる。 9. コミュニティヘルスケアの立場から、疾病の予防について説明できる。 10. 地域保健医療の実践を理解するとともに、それに必要な対応ができる。			
成績評価の方法			
授業への出席状況および本試験を総合的に勘案して評価する。			
教科書・参考書・視聴覚・その他の教材			
【教科書】 特に定めない 【参考図書】 厚生労働統計協会編：国民衛生の動向、厚生労働統計協会 B.ラマツツニ著：働く人々の病気、北海道大学図書刊行会 和田孜他編：産業医学マニュアル、南山堂 福見秀雄著：社会の中の感染症、日本評論社 Mary Dobson著 小林力訳：Disease、医学書院 厚生労働省労働衛生課監修：産業医の職務Q & A 第9版、産業医学振興財団 吉田幸雄，有菌直樹 著：図説人体寄生虫学 第8版、南山堂			
コア・カリとの関連			
A1 (3) 医師の義務と裁量権，A2 (1) 安全性の確保，A2 (3) 医療従事者の健康と安全，A3 (1) コミュニケーション，A4 (1) 課題探求・解決能力，A4 (3) 医学研究への志向の涵養，B (1) 社会・環境と健康，B (2) 地域医療，B (3) 疾病と予防医学，B (4) 生活習慣と疾病，B (5) 保健，医療，福祉と介護の制度，C3 (1) 寄生虫，E1感染症，E4物理・化学的因子による疾患			